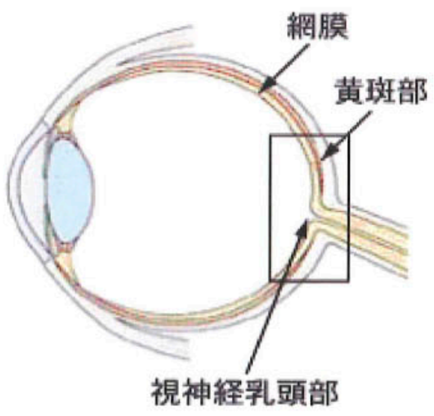
眼科紹介

はじめまして。平成23年４月より勤務させて頂いております、上野 豊広（うえの とよひろ）と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。
簡単に自己紹介させて頂きますと、大阪府出身、平成16年に関西医科大学医学部を卒業。同大学医学部附属病院にて初期研修後、平成18年に京都大学眼科学教室に入局。京都大学医学部付属病院、公立豊岡病院日高医療センター（兵庫県）、木村眼科内科病院（広島県）に赴任しておりました。白内障、涙道、網膜硝子体、緑内障など眼科全般を勉強させて頂きました。
わかりやすい説明を心がけ、地域の皆様のお役に立てますよう、日々の診療を頑張りたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

さて、当眼科で行っている診療の一部をご紹介致します。OCTという新しい検査機器と、加齢黄斑変性に対して抗VEGF抗体と呼ばれる薬剤を眼内に注入する治療法を導入しました。
まず、OCTについて説明致します。

1．OCTとは

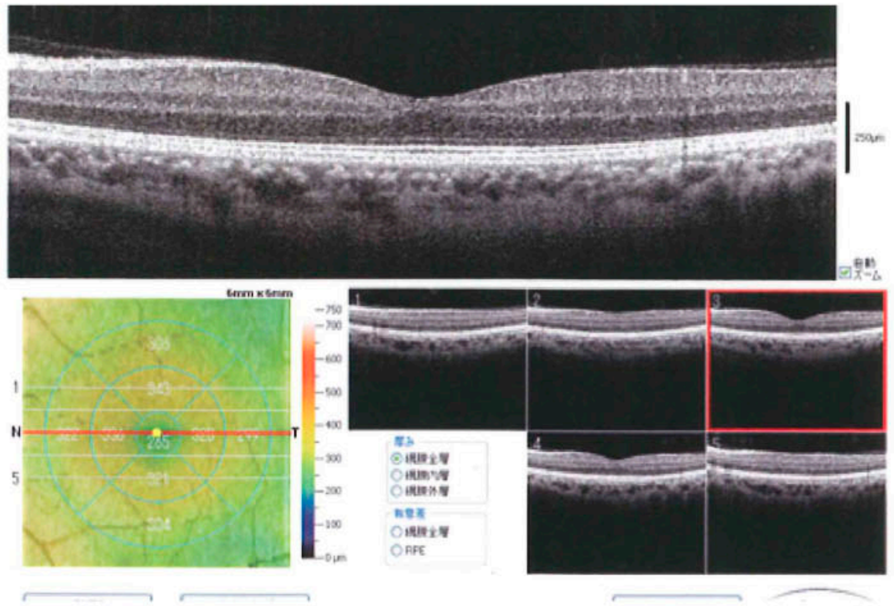
光干渉断層計(optical coherence tomograph)で、近赤外線を利用した眼底の検査機器です。放射線を使用しないため安全で、短時間で終了し、痛みもありません。今までの眼底検査では網膜の表面までしかわかりませんでしたが、OCT では網膜の断層を撮影でき、わずかな変化さえ検出できるようになりました。



2．診断にOCTが有効な理由

OCTによって、網膜の断面の観察が出来るようになり、網膜疾患、特に黄斑部病変の診断が今までとは比較にならないほど早期かつ正確に下せるようになりました。今までなら「わからんな〜。もう少し様子を見てみましょう。」と経過観察にしていた疾患が、OCT導入後は早期に的確な診断がつくことがあります。
白内障手術に関しても、術前にOCTでしっかりと黄斑部疾患の検索をすることにより、術後視力の予想精度が更に高まりました。

黄斑部



膠原病（こうげんびょう）って何だろう？

世の中に数多くあまた存在する病気の中に膠原病と呼ばれる一連の疾患群があります。ただ「膠原病」と聞いてもどんな病気なのか、ピンとこない方も数多くいらっしゃると思います。
そこでこの場をお借りして少し膠原病に関してお話させていただきたいと思います。
まず、「膠原病」とは病名ではありません。「皮膚病」や「腎臓病」といった具合に、「膠原病」のなかには様々な病気が含まれます。例えば、膠原病の中で代表的な病気といえば関節リウマチなどが挙げられ、その他数多くの病気があります。
ただ「膠原病」はどの病気であれ、症状は共通するものが多いです。例えば関節や筋肉の痛みやこわばりがある、原因のわからない発熱が続く、皮膚に紅い斑点がでる、指先が白くなったり紫色になったりする、体がだるく疲れやすい、体重が減る、手足や体がむくむ、といったものです。
膠原病は自分の体が自分の体を攻撃してしまうことによって発症する病気で、その攻撃の矛先が、関節であれば関節痛が、皮膚であれば皮疹が、内臓であれば内臓の損傷が起こってきます。このように体のあらゆるところにあらゆる症状が起こってくる疾患群といっても過言ではありません。
では「膠原病」とは何が原因で発病するのでしょうか？これは残念ながら現在の医学でははっきりとしたことはわかっていません。先に自分の体が自分の体を攻撃してしまう病気と述べましたが、この現象は正常な人には見られず、膠原病の患者さんにこのことが起こっていることは解明されています。ではなぜ膠原病の患者さんでは自分の体が自分の体を攻撃してしまうようになってしまったのか？、これはまだよくわかっていません。しかし、いくつかの要因が重なりあって発症すると考えられています。
まず「膠原病」は遺伝性の病気ではありません。しかし、膠原病にはかかりやすい体質と素因があると言われています。だからといってこういう体質や素因を持った人に必ず膠原病が発病するわけではありません。つぎに、感染症や、薬物、紫外線（日光）、美容形成（シリコンなどの異物注入）、妊娠、出産、外傷、外科的手術、ストレス、寒冷などが引き鉄となり、発病の誘因になりうるとされています。「膠原病」はこういった背景をもとに発病してくるとされています。また、「膠原病」は他人に感染する疾患ではありません。このように「膠原病」は原因が不明であり、一度その病気になると、現在の医学では完全に病気を根治しうる治療法が確立されておらず、その患者さんは一生その病気と向き合っていくこととなり、それ故、わが国では「膠原病」とその関連疾患の多くは、厚生労働省によって特定疾患（いわゆる「難病」）に指定され、公費補助対象疾患とされています。
「膠原病」の治療には従来より‘自分の体が自分の体を攻撃してしまうこと’を抑えるための副腎皮質ホルモン（ステロイド薬）や免疫抑制薬といった薬が使用されます。これに加えてここ10数年ほどの間に、医学の進歩に伴い、新しい治療法が確立されつつあります。特に関節リウマチの治療においては、炎症を起こす原因となっているサイトカインという物質を中和する抗体などが作られるようになり、「生物学的製剤」として治療に使用されてきています。現在開発中のものも多数あり、今後膠原病治療は更に進歩するものと期待されています。
「膠原病」は難病とはされていますが、しかし、このように近年の医学の進歩によって、「膠原病」の生命予後は大きく改善してきており、急激に悪化して死に至るようなケースは稀になってきています。時間は少しかかりますが、病状が安定すれば、社会復帰も十分可能で、患者さんの多くは、普通に仕事をし、日常生活を送り、出産や子育てもされています。当院膠原病・腎臓内科では膠原病および腎臓病を対象の中心として診療を行っています。膠原病は全身に病変がおよぶため、各臓器別の診療科や放射線科などと連携をとりながら、また外来患者さんにおいては専門的管理とともに日々の管理が重要であり、患者さんかかりつけの先生方、地域の先生方と連携した診療を今後目指していきたいと考えています。

（膠原病・腎臓内科　生駒）